

環境時代のサポート技術と商品力を徹底強化



取締役 常務執行役員

松田 充弘

1992年の地球サミットにおいて「アジェンダ21」が採択され、21世紀に向けての環境と開発に関する行動原則が示されました。その後PIC条約(化学物質の国際貿易手続に関するロッテルダム条約)、POPs条約(残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)、GHS(化学品の分類及び表示の世界調和システム)、REACH(欧州の化学物質規制)等、国際的な化学物質管理のための法律が整備されてきました。

わが国においても、化審法(化学物質審査規制法)、化管法(化学物質排出把握管理促進法 - PRTR・MSDS)等の法律が整備されるとともに、環境問題への認識の深まりもあって、単なる「規制対応」から「自主管理」への取り組みが求められる段階にまできました。例えば、わが国の改正大気汚染防止法では、VOC排出抑制に関する国民の努力として低VOC製品の選択・購入に努めなければならないと謳われており、製品供給側には国民が選びやすい商品の枠組みを自主的に提供することが求められています。塗料業界としても室内環境問題や化学物質の安全性の問題を含め、環境に配慮した自主管理を進めていかなければなりません。

当社は、環境対応技術・商品開発にいち早く取り組み、業界をリードしてきましたが、今後も「環境保全」「省エネ・省資源」、「省力化・高機能化」など、「環境時代をサポートする技術」の優位性確保に努めるとともに、商品の開発スピードを早めて、ユーザー・顧客のニーズにそった製品を持続的に提供し、市場での評価を確立することが肝要です。

「環境保全」技術分野の強化商品は、水性塗料・粉体塗料・ハイソリッド塗料・天然素材塗料・UV硬化塗料などがあります。「省エネ・省資源」技術分野では、都市のヒートアイランド現象の緩和が期待できる熱反射塗料(遮熱塗料)が今最も注目されているところです。「省力化・高機能化」では、塗装工程の短縮化及び高耐久化による長寿命化などが引き続き追求すべき技術的課題です。

また、これら環境サポート技術と当社新規事業分野の先端技術との融合も期待できます。透明導電性コーティングをはじめとする「ナノテクノロジー分野」、吸着分解・バイオマス・リサイクル等の「バイオテクノロジー分野」、「光触媒分野」、「CO₂吸着固定化技術分野」等の関連テーマについて開発を積極的に推進していますが、これら先端技術との融合によって環境サポート技術の革新を図り、環境をより強く意識した企業へ脱皮していく所存です。

DNTコーティング技報第6号では、当社の最新の環境サポート技術・商品の一端をご紹介します。日頃ご愛顧を頂いておりますユーザーの皆様をはじめ、塗料に携わる方々に僅かでもお役に立てますことを心から期待しております。

平成18年10月